

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

これからの時代を担う子どもたちに必要な能力としてOECDが定義付けている「キー・コンピテンシー、つまり、主要能力〔単なる知識や技能だけではなく、技能や態度を含む様々な心理的・社会的なリソースを活用して、特定の文脈の中で複雑な課題に対応することができる力（具体的には、①社会・文化的、技術的ツールを相互作用的に活用する力、②多様な社会グループにおける人間関係形成能力、③自立（律）的に行動する能力）〕及びその考え方を先取りして定められたとも言える新学習指導要領において示されている「生きる力」の重要性を踏まえ、校訓「自主自立・共生・創造」のもと、総合学科の特色を生かして、自己を見つめなおし志をもって自己を実現できる生徒を育成する。具体的にめざす事柄としては、以下の4点である。

- ・キャリア教育を通して、将来社会の一員として活躍しようとする姿勢の育成
- ・生徒の希望する進路や興味・関心に応え、基礎的な学力を定着・伸長させるとともに、将来を考えて積極的に選択できる選択科目とカリキュラムの設定
- ・生徒自らが考え、自分の考えを表現・発表できる授業の実現
- ・人間関係を豊かにし、様々な立場を認め合い協力し合い、実社会に参画・貢献しようとする姿勢の育成

2 中期的目標

1 生徒の確かな学力の育成及び教員の授業力の向上

- (1) 新学習指導要領の趣旨を踏まえ、「わかる授業」「生徒が主体性をもって参加する授業」をめざした授業改善に取り組む
- ア 平成 25 年度に設置した「授業力向上プロジェクトチーム」を核として、また、授業アンケート結果を効果的に活用して、研究授業や研修等に組織的に取り組み、「言語活動の充実」「グループワーク」「ICT 活用」「反転学習」等を意識しながら授業改善についての研究を進める。
- ※第 2 回目の授業アンケートの全校・全教員共通の質問項目の肯定率が 2 項目とも 70% を切る授業の延べ講座数（平成 25 年度延べ 84 講座）を毎年引き下げ、平成 28 年度のアンケートでは 25 講座以下にする。
- ※生徒向け学校教育自己診断における「授業満足度」（平成 25 年度 60.1%）を毎年引き上げ、平成 28 年度には 80% 以上にする。
- (2) 家庭での学習習慣を身に付けさせるための取組みを推進する。
- ア 「学習カレンダー」「朝の学習」等、これまでに取り組んできた事柄を充実させるとともに、他校の実践に学びながら、効果のある新たな取組みを検討する。
- ※生徒向け学校教育自己診断における「家庭での学習時間の充実度」（平成 25 年度 46.3%）を毎年引き上げ、平成 28 年度には 70% 以上にする。

2 夢と志を育むためのキャリア教育及び確実な進路実現につながる進路指導の充実

- (1) 「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」等の内容とその成果を吟味し、より一層効果のあるキャリア教育の体系的な全体指導計画を確立する。
- ア 体系的な全体指導計画を検討するための新しい組織を立ち上げて、「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」等の全体指導計画を検討する。
- ※生徒向け学校教育自己診断における「キャリア教育に関する充実度」（平成 25 年度 77.1%）を毎年引き上げ、平成 28 年度には 90% 以上にする。
- イ グローバル人材の育成に資するため、平成 26 年度以降の入学生については、海外修学旅行を推進する。
- ※「修学旅行の充実度」に関するアンケートを実施し、平成 27 年度以降、生徒・保護者の肯定率を恒常的に 90% 以上に保つ。
- (2) 科目選択ガイダンス機能を充実させ、科目選択のミスマッチを少なくし、進路希望と学力に応じた科目選択が実現できるようにする。
- ア 教務部と進路指導部と担任団の連携を強化し、教育産業による学力生活実態調査を活用しながら、科目選択ガイダンス機能を充実させる。
- ※生徒向け学校教育自己診断における「科目選択指導のきめ細かさ適切さ」の肯定率（平成 25 年度 62.6%）を毎年引き上げ、平成 28 年度には 85% 以上にする。
- (3) 確実な進路実現につながる進路指導ができるよう、進路指導に関する 3 年間の全体計画を確立する。
- ア 進路指導に関する 3 年間の全体計画を確立するとともに、生徒・保護者に対して情報提供をきめ細かく行い、家庭と学校との連携を密にする。
- ※学校教育自己診断における「進路指導に関する満足度」（平成 25 年度生徒 65.4% 保護者 65.7%）を毎年引き上げ、平成 28 年度には生徒・保護者ともに 85% 以上にする。
- ※国公立大学と難関中堅私立大学への合格者数の合計について、過去 3 年間の平均〔90 名〕を維持または増加させることをめざすと同時に、センター試験出願者数について、過去 3 年間の平均〔103 名〕を維持または増加させることをめざす。

3 安全・安心で居心地のよい学校環境づくり、カウンセリングマインドを伴った生徒指導の徹底、生徒の生活規律・自己管理の徹底

- (1) いじめをはじめとする人権侵害事象が起こらないよう、すべての教育活動を通じて、生命や人権を大切にす精神を徹底する。
- ア 平成 25 年度に定めた「学校いじめ防止基本方針」に基づいて、「いじめの起こらない」学校づくりを推進する。
- ※アンケート「安全で安心な学校生活を過ごすために」をより一層有効活用し、いじめ事象（それに準ずる事象を含む）発生件数 0 を維持する。
- (2) カウンセリングマインドを伴った生徒指導を徹底し、安全・安心で居心地のよい学校環境づくりを推進する。
- ア 共生推進教室をめぐる取組みを充実させるとともに、知的障がいや発達障がいはじめとする配慮を要する生徒等の「困り感」の把握に関する研修を行い、生徒に対してよりきめ細かい対応ができる体制を構築する。
- イ 教育相談委員会の組織を改編し、会議で共有された生徒情報を全教職員が共有できるようにするなどして、配慮を要する生徒等に全教職員が関与できる土壌をつくり、教育相談機能の充実を図る。
- ※学校教育自己診断において「教育相談機能の充実度」に関する項目を再構築し、生徒・保護者の肯定率を平成 26 年度には 60% 以上にし、その後毎年引き上げ、平成 28 年度には 75% 以上にする。（参考：平成 25 年度、「担任の先生以外にも、保健室や相談室等で、気軽に相談することができる先生がいる。」の生徒の肯定率 42.4%、「先生は、生徒の意見をよく聞いてくれる。」の肯定率生徒 50.5% 保護者 58.0%）
- (3) 遅刻を減らし、安定した生活リズムで学校生活を送れるよう、生徒の自己管理能力を向上させる。
- ア 他校の実践に学ぶなどして、効果のある新たな取組みを導入し、学校全体で遅刻減少のムードをつくる。
- ※年間延べ遅刻者数（平成 25 年度 2,675 件）を毎年引き下げ、平成 28 年度には 1,000 件以下にする。

4 広報活動の充実

- (1) 中学生や中学校、教育産業等に対して、総合学科のよさや学校の日常の教育活動を広報するための取組みを強化する。
- ア 平成 25 年度に創刊した、タイムリーなニュースを満載した新しい広報誌「芦間ニュース」を、年 2 回ずつ継続発刊する。
- イ 特色ある選択科目をはじめとして、数多く設置している科目の授業内容についての情報提供を強化する。
- ウ 生徒・保護者対象のオープンスクールや学校説明会、中学校や塾の教員対象の学校説明会の内容の充実を図り、参加者数の維持・増加をめざす。
- ※生徒・保護者対象のオープンスクールや学校説明会への参加者数の合計（平成 25 年度約 1,200 名）を、恒常的に、1,100（1,000+100）名以上に保つ。
- ※志願倍率（平成 26 年度前期選抜 1.77 倍）を恒常的に 1.5 倍以上に保つ。

5 計画的な備品等の更新

- (1) 新たな取組みに必要な備品等や老朽化してきた備品等を計画的に更新していく。

全項目の推進・充実によって

◆全員進級・全員卒業

入学した生徒すべてが、学校生活に困ることなく、安全・安心で居心地のよい学校生活を過ごし、希望する進路を実現して、卒業できるようにする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>○高校生活全般について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「芦間高校での高校生活に満足している。」の肯定率は、生徒が 81.0%、保護者が 86.4%であり、昨年度同様、概ね良好であると考えられる。 <p>○授業をはじめとする教科指導について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業は、分かりやすく、内容が充実している。」の肯定率は、教職員が 90.9%であるのに対し、生徒は 63.8%、保護者は 60.5%と、昨年度同様、差はあるが、それぞれ上昇している。 ・「魅力ある授業になるよう、指導方法の工夫・改善を行っている。」の肯定率は、教職員が 87.9%であるのに対し、生徒は 52.6%にとどまっております、その差は昨年度より大きくなっている。 ・生徒の「家庭学習の充実度」は 43.9%と昨年度よりさらに下降し、「自学自習ができるように、授業などで適切な指示を出している。」と回答した 66.6%（これも昨年度より下降）の教職員の努力や工夫が生徒に届いていないと考えられる。 ・これらの結果から、教職員の授業に対する努力や工夫が生徒の実態や気持ちにフィットするよう、引き続き、様々な視点で検討をしていかなければならないと考えられる。 <p>○科目選択について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校は、総合学科ということもあり、「選択科目が多く、それらを自分で選べるところが魅力である。」の肯定率は、生徒が 82.1%、保護者が 86.4%となっており、昨年度以上に高い値となっている。 ・一方、「科目選択の指導は、きめ細かく適切に行われている。」の肯定率は、教職員が 87.9%であるのに対し、生徒は 64.9%、保護者は 63.6%と、昨年度同様、差はあるが、それぞれ上昇している。 ・また、「自分の進路希望に合った科目選択ができています。」の肯定率は、教職員が 84.8%であるのに対し、生徒は 65.2%、保護者は 72.0%と、指導のきめ細かさと同様に差が生じている。 ・科目選択について、指導のきめ細かさや進路希望との合致等、ガイダンス機能の充実という点での再点検が必要ではないかと考えられる。 <p>○進路指導やキャリア教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校は、総合学科ということもあり、「産業社会と人間」を核として、キャリア教育の推進に力を注いでおり、「将来の進路や生き方について考える機会がある。」の生徒の肯定率は 81.8%、『『産業社会と人間』や『総合学習』の授業を通して、自分の適性や将来についてよく考えるようになった。』の生徒の肯定率は 73.6%と、昨年度と同程度の水準を維持している。 ・一方、「芦間高校の進路指導には満足している。」の肯定率は、生徒が 68.1%、保護者が 61.7%となっており、これを含めて、進路指導の充実に関する4項目〔項目番号は、生徒用が 11, 13, 17, 18、保護者用が 10, 12, 16, 18〕の肯定率の平均は、生徒が 57.5%、保護者が 58.0%にとどまっているが、昨年度よりは上昇している。 ・特に、「進路指導面で、家庭への連絡や意思疎通は、きめ細かく行われている。」の保護者の肯定率は 45.9%と、昨年度よりはやや上昇しているものの、依然として 50%を切っている。「生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている。」と回答した教職員が 81.8%（これは昨年度よりは下降）いることと比べ、大きな隔たりが生じている。 ・進路指導については、より一層、生徒や保護者のニーズや期待に応えられるよう、情報発信の充実及び家庭との密な連携等を中心に、丁寧な対応が求められていると考えられる。 <p>○生徒指導、教育相談、人権教育等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生徒指導の方針は理解できる。」の保護者の肯定率は 69.7%、「生活指導面で、適切な指導や注意をしている。」の保護者の肯定率は 72.5%と、昨年度と同程度の水準を維持しており、本校の生徒指導の方針や在り方は、一定程度保護者に受け入れられていると考えられる。 ・「学校行事は、楽しく行えるよう工夫されている。」の生徒の肯定率は 73.4%、「生徒は、文化祭・体育祭などの学校行事に積極的に参加している。」の肯定率は、生徒が 81.9%、保護者が 92.7%と、昨年度と同程度の水準を維持し、学校行事については充実していると考えられる。 ・「担任の先生以外にも、保健室や相談室等で、気軽に相談することができることを知っている。」の肯定率は、生徒が 55.8%、保護者が 54.4%にとどまっている。教育相談体制のさらなる充実をめざす必要があると考えられる。 ・「先生は、生徒の意見をよく聞いてくれる。」の肯定率は、教職員が 91.1%であるのに対し、生徒は 59.3%、保護者は 63.6%と、昨年度同様、差はあるが、それぞれ上昇している。また、「芦間高校は、カウンセリングマインドを取り入れた生徒（生活）指導を行っている。」の教職員の肯定率は 78.8%（これは昨年度よりやや下降）である。これらの隔たりの原因について引き続き研究するとともに、より一層、生徒の心や気持ちに寄り添った「カウンセリングマインドを伴った指導」を徹底しなければならぬと考えられる。 	<p>第1回 (H26.06.17)</p> <p>◎「家庭学習の充実」「授業力の向上」「進路指導の充実」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何が勉強時間を奪っているか、どうすれば家庭学習が確保できるかを生徒に意識させる。 ・計画を立てさせて、スケジュール管理を自分でさせて、自己分析をさせてみる。 ・早く目標をはっきりさせて、その目標の実現のための説得力のあるデータを提示する。つまり、「〇〇大学に行きたいのなら、これが必要。」というような明確なデータが必要。 ・家庭学習時間が30分程度以下の生徒の理由や背景を分析すれば、てだてが分かる。 ・教育産業の診断テストを用いて、家庭学習とリンクしている背景を分析する。 ・家庭学習時間が少なくなってきた際に、生徒にそのことを早く気付かせることが大切。 <p>◎「遅刻指導」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「なぜ、遅刻がダメなのか。」を生徒にはっきりと伝えて、納得させることが肝要。 ・経年的に減らすには、生徒にそのための意識を植え付けること。PTに頑張ってもらいたい。 ・早く来ようという意欲を掻き立てるわくわくするような雰囲気や企画を用意する。 ・生徒会が企画して自分たちで律することも大切。 <p>第2回 (H26.10.11)</p> <p>◎「授業力向上等の取組み」「進路指導関連の目標の実現に向けた取組み」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクティブ・ラーニングの推進には、教員のジェネリック・スキル（社会に通用する力）が大切であり、アクティブ・ラーニングの形式だけを追い求めてはいけぬ。また、アクティブ・ラーニングの導入に当たっては、それを支えるカリキュラムの構成と教科横断的に取り組む姿勢が必要で、具体的な実践に落とし込むことが肝要。また、文部科学省の大学入試・大学教育・高校教育の一体化改革ともリンクさせて議論する必要がある。 ・日々の授業の振り返りを蓄積・充実させ、日々の授業改善をこまめに行っていくこと。 ・生徒の授業への満足度が高くても、生徒の授業への期待度と方向性がずれてはいけぬ。生徒の授業への期待度を高める努力をすべき。 ・ICTは、単に使えばよいというものではない。ICTは、それに頼り過ぎず、どの場面でものように効果的に使うのかなど、使う場面を工夫・精選していくことが大切。 ・ICTを活用する場合は、教員側の使用意図を明確化することが大切。 ・グループワークについては、教員側がその醍醐味を共有化することが大切。 ・各教科・科目で、何を活かして何を共有化して取り組むかという視点をもつことが大切。 ・学校が出した宿題を先生が是が非でも生徒に提出させる。先生も生徒もたいへんだが、それを実践している学校がある。例えば、「この問題集さえやれば〇〇大学の教科〇〇は制覇できる」など、学校として共通のこともをもって生徒に示せば分かりやすい。 ・「〇〇大学に行くには〇〇しなければ」など、1年次から現実の厳しさをはっきりと伝えるべき。「決して、甘く考えてはいけぬ。」という厳しい現実を教えるべき。 ・保護者集会の案内がまだまだ保護者に伝わっていないので、お知らせポスターや案内プリントやメルマガ等で周知を徹底してほしい。進路の話聞く機会をもっとほしいと思っている保護者は多いはずなので、お知らせが届けば、進路指導の満足度も上がる。 ・学業も徹底的に行うが、人間的成長を促すためのキャリア教育や行事も充実している。そのような芦間高校の魅力をもっと発信し、普通科との違いを打ち出すことが大切。広報の面でも勝負どころの時期である。学校の生き残りがかかっていると言える。 <p>◎「遅刻回数減少プロジェクトの取組み」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理屈で「1回目からでも遅刻したらダメだ」ということを単純に分からせること。 ・「〇〇の取組みを行って、よい結果が出た。」など、教育に関する大事なデータを広報誌に掲載し外部の方々にもアピールすること。遅刻を0にすれば、保護者の評価が変わる。 ・芦間高校は、女生徒のスカートも短くないし、保護者以外の方が見ても、安心して子どもを任せられる学校である。遅刻が確実に減少するよう、力を尽くしてほしい。 <p>第3回 (H27.02.14)</p> <p>◎「家庭学習の充実」「授業力の向上」「進路指導の充実」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業は、分かりやすく、内容が充実している。」の肯定率が生徒 63.8%、保護者 60.5%、教職員 90.9%となっているなど、生徒・保護者と教職員との間に差があり、根本的にズレが生じている。このズレの原因を探るための分析が必要。 ・教職員がこんなに頑張っているのに報われていない、ということなのか、また、アンケートを行うことで、かえって教職員のモチベーションが下がらないか、懸念される。 ・保護者の肯定率が低いのは、授業の様子が保護者にはなかなか分からないし、自分の子どもの学力が上がっていかねば否定的に答えてしまうからではないだろうか。もっと、保護者が授業を見る機会を増やしてみようか。 ・学習カレンダーなどを使って、学校として強制的に勉強をさせるのなら、単純に宿題の量を増やせばよい。また、一方で、教科間で宿題の総量を調整し、「これぐらいなら量ならば確実に3時間で取り組める。」などと生徒にアプローチしてみようか。 ・現場の教員に、アクション・リサーチの取組みを進めてほしい。 <p>◎「遅刻指導」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親から注意されると、生徒は一応気にかける。また、「親がうるさいから、あまり携帯が使えない」など、他の生徒への言い訳に使えぬ。保護者が子どもの遅刻の原因を把握できれば、保護者も早く寝なさいなどと明確に言える。遅刻するに至っている背景をしっかりと探らなければいけない。高校生は、なかなか、自己管理・自己コントロールができない。そのあたり、一歩踏み込んだ指導や対策をお願いしたい。 ・遅刻を繰り返した時点での指導は難しい。入学当初に、常識として「今も、将来社会人になっても、遅刻はダメだ」ということ、「遅刻や欠席は自分自身に跳ね返ってくる」ということを生徒・保護者に理解させることが必要。遅刻や欠席をなくしていくことについて、保護者に理解が得られるよう、入学当初に生徒・保護者に話をしてほしい。 <p>◎「広報」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芦間のことを知らない方が多いのは事実。広報誌の発刊はよい取組みなので、今後も継続し、芦間のことを知らない方にしっかりと知っていただけるよう努力してほしい。 <p>◎「アドミッションポリシー」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アドミッションポリシーを構築する前に、3年間のディプロマポリシー、カリキュラムポリシーを整えることが肝要で、それを踏まえてアドミッションポリシーを創り出す必要がある。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 生徒の確かな学力の育成及び教員の授業力の向上</p>	<p>(1)「わかる授業」 「生徒が主体性をもって参加する授業」をめざした授業改善への取組みの充実 ア 「授業力向上PT」を核とした研究授業等の実施 イ 授業アンケートを活用した授業改善の取組み (2) 家庭での学習習慣に身に付けさせるための取組みの充実 ウ 「学習カレンダー」「朝の学習」等これまでの実績を含めた効果のある取組みの確立</p>	<p>(1) ア・授業力向上に関する校内研修を実施する。 ・府教育Cの支援も受けながら、各教科が、「わかる授業」「生徒が主体性をもって参加する授業」をテーマとした研究授業に取り組む。 イ・各教科が、授業アンケート結果に基づき、課題の分析、課題解決のための改善策の構築、その改善策の効果の検証を行い、HP等で公開する。課題解決のための改善策としては、「①言語活動の充実」「②グループワーク」「③ICT活用」「④反転学習」等を取り入れる。 (2) ウ・学校経営委員会において、他校の実践についての情報を得ながら、家庭での学習習慣を身に付けさせるための効果的な取組みについて検討を行う。 ・「学習カレンダー」「朝の学習」は各学年が確実に実施する。</p>	<p>(1) ア・校内研修を1回以上実施。また、全教科のうち少なくとも5教科で研究授業を実施(11月までに)。 ・生徒向け自己診断における「授業満足度」67%以上(平成25年度60.1%)。 イ・各教科の取組みをHPで公開。各教科で左の①②③④のいずれかを実施。 ・第2回目授業アンケートの全校・全教員共通質問項目の肯定率が2項目とも70%を切る授業の延べ講座数55講座以下(平成25年度84講座)。 (2) ウ・他校の効果的な取組みの情報収集の状況。学校経営委員会で学校として取り組む内容の素案を決定。 ・「学習カレンダー」「朝の学習」を各学年で実施。 ・生徒向け自己診断における「家庭での学習時間の充実に関する2項目」の肯定率の平均が55%以上(平成25年度46.3%)。</p>	<p>(1) ア・12月に大学教授による「アクティブ・ラーニング」に関する研修を実施。研究授業は7教科で実施。(◎) ・自己診断「授業満足度」は63.8%とやや上昇。(△) イ・6教科で取組みを実施しHPで公開。中堅若手教員約10名がICT活用の研究を実施し、実践事例集を作成し、校内研修で共有化。(◎) ・該当講座数55。(○) (2) ウ・4月に「家庭学習充実プロジェクト」を設置し、教育産業の協力により情報を収集し、他校視察(1校)も実施。今後取り組む内容をほぼ決定。(○) ・「学習C」については、1・2年は各長期休業時に活用、3年は週を単位とし継続活用。「朝学」については、1年は週2回、2・3年は週1回実施。(○) ・自己診断「家庭学習充実度」は43.9%と低迷が継続。次年度、上記PTの提案取組みに期待。(△)</p>
<p>2 夢と志を育むためのキャリア教育及び確実な進路実現につながる進路指導の充実</p>	<p>(1)「産社」や「総学」等、キャリア教育の体系的な全体指導計画の検討 ア 全体計画を検討するための新しい組織の立ち上げ イ グローバル人材育成のための海外修学旅行の推進 (2) 科目選択ガイダンス機能の充実、科目選択の進路希望・学力との整合性の確保 ウ 教務部と進路指導部と担任団の連携、教育産業による学力生活実態調査の活用 (3) 進路指導の全体計画の確立、保護者との連携 エ 進路指導に関する3年間の全体計画の確立 オ 家庭と学校との密な連携 カ 生徒・保護者の希望やニーズに沿った進路実現</p>	<p>(1) ア・体系的な全体指導計画を検討するための新しい組織を立ち上げる。 ・生徒の学習意欲の向上や進路意識の高揚、科目選択の充実に確実につながる「産社」や「総学」の全体指導計画を検討する。 イ・平成26年度以降の入学生については、海外修学旅行を推進する。 (2) ウ・各生徒の科目選択が進路希望や学力とミスマッチを起こさないよう、点検のための協議の場を設ける。その際、教育産業による学力生活実態調査を有効活用する。 ・教務部と進路指導部と担任団の連携を強化することによって、自分が決めた選択科目(つまり時間割)に対して生徒が自信と愛着をもてるようにする。 (3) エ・確実な進路実現につながる進路指導ができるよう、進路指導に関する3年間の全体計画を確立する。また、指定校推薦の新規開拓等、多様な進路先を確保できるよう努める。 オ・生徒・保護者に対して情報提供をきめ細かく行い、家庭と学校との連携を密にする。 カ・進路指導システム「ASMサポートシステム」を充実させる。</p>	<p>(1) ア・新しい組織の立ち上げ。「産社」「総学」の全体指導計画の検討を開始。 ・生徒向け学校教育自己診断における「キャリア教育の充実に関する2項目」の肯定率の平均82%以上(平成25年度77.1%)。 イ・平成26年度以降の入学生について、海外修学旅行の推進を決定。 (2) ウ・左に記したような協議の場の設定。学力生活実態調査の活用。 ・生徒向け学校教育自己診断における「科目選択指導のきめ細かさ適切さ」の肯定率70%以上(平成25年度62.6%)。 (3) エ・進路指導に関する3年間の全体計画の構築。 オ・進路通信の発行、HPでの発信等、年間で15回以上情報発信。 ・学校教育自己診断における「進路指導の満足度」が生徒・保護者ともに72%以上(平成25年度生徒65.4%保護者65.7%)。 ・保護者向け学校教育自己診断における「進路指導面での家庭との連携のきめ細かさ」の肯定率55%以上(平成25年度43.3%)。 カ・国公立大学と難関中堅私立大学への合格者数の合計について、過去3年間の平均[90名]を維持または増加。 ・センター試験出願者数について、過去3年間の平均[103名]を維持または増加。</p>	<p>(1) ア・検討組織「産社総学調整委員会」の設置を7月に決定。今年度の全体計画を踏まえ、今年度末または来年度当初から同委員会で検討を開始。(○) ・自己診断「キャリア教育充実度」は77.7%と現状維持。(△) イ・昨年度末の職員会議で「海外に決定」を教職員に伝達。担任団と国際交流調整委員会とが連携し推進・遂行。(○) (2) ウ・科目群表の妥当性を5月に「科目選択プロジェクト」(教務部と進路指導部とが連携)で確認。秋以降に教科と担任団とが連携しミスマッチを防ぐ点検を実行。学力生活実態調査の活用は次年度へ検討を継続。(○) ・自己診断「科目選択指導適切度」は64.9%とやや上昇。(△) (3) エ・過去の実績を踏まえ高大連携を重視した今年度の取組みを充実させて、3年間を見通した全体計画を構築。(○) オ・1年7号、2年5号、3年5号まで発行。HP発信は6回。(○) ・自己診断「進路指導満足度」は、生徒68.1%でやや上昇、保護者61.7%でやや下降。(△) ・自己診断「進路指導家庭連携度」は45.9%と若干上昇。(△) カ・国公立大学と難関中堅私立大学への合格者数の合計は118名(◎) ・センター試験校内説明会に153名が参加し、実際の出願は132名。(◎)</p>

<p>3 生活規律・自己管理の徹底 安全・安心で居心地のよい学校環境づくり、カウンセリングマインドを伴った生徒指導の徹底、生徒の</p>	<p>(1) 生命や人権を大切にす精神の徹底 ア 「学校いじめ防止基本方針」に則った学校運営 (2) カウンセリングマインドの徹底、安全・安心で居心地のよい学校環境づくり イ 生徒の「困り感」の把握の徹底等、きめ細かい対応ができる体制づくり ウ 教育相談委員会の組織改編等、教育相談機能の充実 エ 教育相談室の利用促進のための工夫 (3) 遅刻者数の減少、生徒の自己管理能力の向上 オ 効果のある新たな取組みの導入</p>	<p>(1) ア・平成 25 年度に定めた「学校いじめ防止基本方針」に基づいて、「いじめの起こらない」学校づくりを推進する。 (2) イ・他校の実践に学ぶための校内研修を行い、障がいのある生徒をはじめとする配慮を要する生徒等の「困り感」の把握や解決により一層尽力する。 ウ・教育相談委員会のメンバーに首席と支援教育コーディネータを加え、会議で共有した生徒情報を全教職員が共有できるようにするなどして、配慮を要する生徒等に全教職員が関与できる土壌をつくる。 エ・教育相談室の利用の促進のために、広報活動の充実や生徒を巻き込んだイベント企画について検討する。 (3) オ・遅刻者数減少対策について、生徒指導部を中心に、他校の実践について情報収集するなどして、効果のある取組みを取り入れる。</p>	<p>(1) ア・「学校いじめ防止基本方針」に則った学校運営ができていないか否かについて「いじめ防止及び対策委員会」で検証。 ・アンケート「安全で安心な・・・」への生徒の記述状況〔いじめ事象（それに準ずる事象を含む）発生件数0〕とその内容に対する対応等。 (2) イ・校内研修を1回以上実施。 ウ・教育相談委員会の組織改編。全教職員での生徒情報の共有。 ・学校教育自己診断において「教育相談機能の充実度」に関する項目を再構築し、生徒・保護者の肯定率 60%以上。(参考：平成 25 年度、「担任の先生以外にも、保健室や相談室等で、気軽に相談することができる先生がいる。」の生徒の肯定率 42.4%、「先生は、生徒の意見をよく聞いてくれる。」の肯定率生徒 50.5%保護者 58.0%) エ・教育相談室だよりの発行回数（年間5回以上）。 ・イベント企画の実施。 (3) オ・他校の実践の情報収集の状況。効果のある取組みの導入。 ・年間延べ遅刻者数 1,900 件以下（平成 25 年度 2,675 件）。</p>	<p>(1) ア・「防対委」を開催し検証した結果、次年度も現方針と現体制を維持。(○) ・「いじめ認定」0件。安全安心アンケートに記述した生徒の管理職面談は完遂し、必要に応じて学年と連携してケアを継続中。(○) (2) イ・5月に中学校教員による「支援教育体制」に関する研修、10月に大学教授による「発達障がいの生徒の困り感の把握と接し方」に関する研修を実施。(◎) ウ・首席と支援教育 Co をメンバーに加え、各会議内容を記録し、情報共有した内容のうち、重要なものについては職員会議において共有。(○) ・自己診断「教育相談機能充実度」は、生徒 57.6%保護者 59.0%と目標値に近い。(○) エ・4回発行。3学期に第5号発行予定。(○) ・イベントは未実施。次年度へ企画検討を継続。(△) (3) オ・4月に「遅刻回数減少プロジェクト」を設置し、他校の情報を収集し、他校視察（6校）も実施。今後取り組む内容をほぼ決定。(○) ・年間延べ遅刻者数は 2,442 件で 233 件減。次年度、上記 PT の提案取組みに期待。(△)</p>
<p>4 広報活動の充実</p>	<p>(1) 総合学科のよさや学校の日常の教育活動の広報の強化 ア タイムリーなニュース満載の新広報誌の年2回継続発行 イ 各科目の授業内容についての情報提供の強化 ウ オープンスクールや教員対象説明会の内容の充実 エ 今後のさらなる特色づくりに向けての検討</p>	<p>(1) ア・平成 25 年度に創刊した、タイムリーなニュースを満載した新しい広報誌「芦間ニュース」を、年2回ずつ継続発行する。 イ・HP に各科目のシラバスを掲載し、また、特色ある選択科目を中心にその授業の様子の写真や動画等をHP 等で紹介するなど、数多く設置している科目の授業内容についての情報提供を強化する。 ウ・生徒・保護者対象のオープンスクールや学校説明会、中学校や塾の教員対象の学校説明会の内容の充実を図る。 エ・今後を見通して、学校のさらなる特色づくりに関する議論を深める。 ・科目のスクラップ・アンド・ビルドについて検討する。</p>	<p>(1) ア・新しい広報誌「芦間ニュース」を年2回発行。 イ・各科目のシラバスのHP への掲載。 ・各科目の授業の様子の写真・動画等のHP への掲載。 ウ・生徒・保護者対象のオープンスクールや学校説明会への参加者数の合計 1,100 名以上（平成 25 年度約 1,200 名）。 ・中学校や塾の教員対象の学校説明会の内容の充実と参加者数の維持・増加。 ・志願倍率 1.5 倍以上（平成 26 年度前期選抜 1.77 倍）。 エ・学校経営委員会において、さらなる特色づくりについての議論を開始。 ・科目のスクラップ・アンド・ビルドについての検討を開始。</p>	<p>(1) ア・昨年度よりも充実した内容で2回の発行を完遂。(◎) イ・学校設定科目のシラバスをHP に掲載。(○) ・専用の「授業紹介コーナー」は未設置だが、校長ブログ等で随時掲載。(○) ウ・オープンスクールや学校説明会への参加者数の合計は 1,240 名以上。(◎) ・塾訪問及び中学校訪問の充実により、塾教員対象説明会が 30 名強、中学校教員対象説明会が約 50 名といずれも参加者数が大幅に増加。(◎) ・志願倍率は 1.57 倍。(○) エ・「学校経営委員会」で検討を指示。(○) ・7月に他高教員による「協働」等に関する研修を実施。「学校経営委員会」で検討を指示。(○)</p>
<p>充実によって</p>	<p>◆全員進級・全員卒業</p>	<p>◆入学した生徒すべてが、安全・安心で居心地のよい学校生活を過ごし、進級・卒業できるようにする。</p>	<p>◆在校生の全員進級・全員卒業</p>	<p>◆3年で2名退学1名原級留置。2年で1名退学2名転学1名原級留置。(△)</p>